

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-90C	12-035	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Alcohol intake and the incidence of non-hodgkin lymphoid neoplasms in the cancer prevention study II nutrition cohort. アルコール摂取と非ホジキンリンパ腫罹患 (the cancer prevention study II nutrition cohort)		
執筆者		
Gapstur SM, Diver WR, McCullough ML, Teras LR, Thun MJ, Patel AV.		
掲載誌		
Am J Epidemiol. 2012 Jul 1;176(1):60-9.		
キーワード		
アルコール摂取、リンパ腫、非ホジキン病		
要 旨		
目的： 非飲酒者に比し飲酒者において非ホジキンリンパ腫のリスクが低いことが多数の研究より示されているが、量反応関係および過去飲酒者と現在飲酒者、飲料の種類、非ホジキンリンパ腫のサブタイプによる違いについては分かっていない。そこで、アルコール摂取と非ホジキンリンパ腫およびそのサブタイプの関連を検討した。		
方法： データは 50-74 歳のアメリカ人男性および女性の前向き研究である the Cancer Prevention Study II Nutrition Cohort を用いた。143124 名を 1992-2007 年まで追跡した。多変量調整相対危険度と 95%信頼区間を Cox 比例ハザード回帰より算出した。		
結果： 追跡期間中、1991 例の非ホジキンリンパ腫を観察した。非飲酒者に比し、非ホジキンリンパ腫の相対危険度は過去飲酒者で 0.90 (95%信頼区間 : 0.75-1.10)、<14g/日で 0.93 (0.83-1.03)、14-28g/日で 0.91 (0.78-1.06)、>28g/日で 0.78 (0.65-0.93) であった。関連は性別 (交互作用の p 値=0.45)、飲料の種類 (p 値=0.22) で違いはなかった。アルコール摂取は T 細胞リンパ腫 (傾向性の p 値=0.76) よりも B 細胞リンパ腫 (傾向性の p 値=0.005) でより強く関連し、B 細胞リンパ腫のサブタイプでも同様であった。		
結論： 本前向き研究より、現在の重度のアルコール摂取は非ホジキンリンパ腫リスクの減少と関連した。この関連は飲料の種類で違いはなく、T 細胞腫瘍よりも B 細胞腫瘍でわずかに強かった。		